

各位様

■ 第 47 回調査研究方法検討会かわら版 ■

去る 3 月 13 日 (土), 14 日 (日): 八重洲ホール (東京) にて第 47 回調査研究方法検討会が開催されました. 場所の設定・準備などは宮田章子先生, 加地はるみ先生のお世話になりました. 検討会の報告は各演者の方へお願いしております. ご発表いただいた方は, 検討会後に研究の概要とともに検討会で議論された内容を 200 字程度にまとめていただきますようお願い致します. 今回御提出いただいた原稿は, そのまま掲載させていただいております. ご了承下さい.

13 日 (土)

○ 「溶血性連鎖球菌感染症の診断に培養を加えてみました」

原 朋邦

上気道感染症の例で抗菌薬を必須とする感染症は A 群溶血性連鎖球菌による咽頭炎である. 放置すれば急性腎炎, リウマチ熱, 咽頭後膿瘍, などの合併症を併発する可能性もあり, 迅速な診断が望まれている. ネルソンの教科書には培養にも偽陽性があり, 保因者までが陽性に出てゴールドスタンダードにならないこと, 検査キットによる偽陰性もあり, 培養を併用することがよいと書かれている. 治療の決定はキットによる診断結果に基づいてもよいが培養で確認をすることを薦めている. 臨床上必要性を確認してみるべくキットによる診断と培養による診断を併用して行った. 平成 21 年 9 月 1 日から平成 22 年 3 月 9 日までに 130 例を対象とした. 診断キットは製造元ユニパス社 (イギリス), 製造販売元三和化学研究所のストレップ A テストパック・プラス OBC を用いた. 咽頭スワブを用い, 細菌培養はベクトンデッキンソン社製トリプチケースソイ II 5% ヒツジ血液寒天培地を用いて自施設で培養を行い, 溶血性コロニーの発育を認めた場合に検査センター BML において同定, 薬剤感受性テストをディスク法で行った. 咽頭スワブは 1 本の綿棒で行い, 先に血液寒天培地に塗布したもので, キットによる検査をおこなった. 薬剤感受性検査は連休の前などは一部行わなかった. 治療は迅速診断キットの結果により行い, 10 日間のアモキシシリンを経口投与を行い, 投与量は 30~40 mg/kg/日とした. 3 例に経過中に多形性紅斑を認めてアジスロマイシンに変更した.

| 結果 | 培養+ | 培養- | 合計 |
|------|-----|-----|-----|
| キット+ | 44 | 11 | 55 |
| キット- | 5 | 70 | 75 |
| 合計 | 49 | 81 | 130 |

感度 $44/49 = 89.8\%$, キット-培養+の 1 例は G 群なので A 群に関しては $44/48 = 91.7\%$ になる. 特異度 $70/81 = 86.4\%$ であった.

咽頭炎, へんとう炎, 莓状舌, 口蓋発赤, 頸部リンパ節炎, 発疹, 発熱と所見を組み合わせると陽性項目が多いほどキット, 培養ともに陽性率が高かった.

薬剤抵抗性については検査をした 42 例中 EM33, CLDM6, MINO6 が耐性を示めた.

○ 「新型インフルエンザを自験例で振り返る- とくに疫学的事項について」

絹巻 宏

2009 年 8 月~2010 年 1 月の間に絹巻小児科クリニックで経験した新型 (AH1pdm) インフルエンザ 765 例について, 週間症例数の推移と推定感染源を検討した. 流行は年長児から年少児へと移り, 園・学校での感染拡大を家族内感染が助長したと推測される結果であった. 季節性

との比較や感染源推定の根拠についての議論とともに、新型の疫学的特徴について意見交換が行われた。

14日(日)

○「児のヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン接種に伴う家族の認識に関する質的研究」
涌水 理恵

本研究では、HPV ワクチン接種に対する保護者・児それぞれの考え方、家族としての考え方、を養育姿勢、経済状態、ヘルスリテラシー、等を含めた家族背景との関連を踏まえ、質的に解明する。

対象は a)2009 年 12 月から開始された HPV ワクチンを最低 1 回は接種している 10-19 歳の女兒とその保護者、および、b) HPV ワクチンを知っているが希望せず、接種していない 10-19 歳の女兒の保護者（総計 30 名）とし、リクルート実施施設は本学会会員の協力が得られる医療機関とする。

○「救急のかかり方パンフレットのアンケート調査、及び今後の課題について」

米川 元春

予備調査で行ったアンケートでは、実際にパンフレットを活用して救急を受診しないで済んでいる人はごくわずかであった。

それは他地域で行われて来た調査でも同様であり、予測された物であった。しかし、八王子市で更に規模を拡大したアンケート調査を行う事にも意義はあり、アンケートにパンフレットに対する意見を書いてもらい集約することで、今後のパンフレットの配置、配布方法、市民の意識改革に役立てて行けるよう調査を行う事となった。

○「インターネット・リサーチと医療の質の向上に関する調査研究（1）医療安全」

斉藤 匡

診療所における医療安全管理体制は未整備でエラーの現状も明らかではない。そこで、診療所で発生するエラーの把握とデータベースの構築を目的に調査を計画した。学会員を対象に、インターネット上に作成した自己記入式の「エラー報告書」を用いて 1 年間、前方視的に調査する。結果は内容分析の手法で分析し、データベースとして保存し活用する。参加者の募集方法として、学会ホームページやニュースレターの他に、こどもネットで直接郵送することも検討した方がよいということであった。

本検討会は日本外来小児科学会リサーチ委員会に属しています。本検討会についてご相談がありましたら何なりと下記まで FAX またはメールでお問い合わせください。

連絡先：〒833-0027 福岡県筑後市水田 9 9 1-2 杉村こどもクリニック 杉村 徹

FAX: 0942-52-6777, E-mail: sugimura@kurume.ktarn.or.jp